柿生文化

柿生郷土史料館　情報・研究誌
住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
柿生中学校内
電話:070-1503-6401、044-988-0004
http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo
第 127 号

多摩丘陵に残る
義経の面影 - 3

弁慶の二枚橋と鍋ころがし

麻生観光協会理事　麻生歴史観光ガイドの会 名誉会長　松本良樹

奥州平泉にいた義経は、兄頼朝が平家追討の兵を挙げたことを知ると、一目散に兄の下に馳せ参じます。そして治承 4 年（1180）10 月 21 日 黄瀬川の八幡宮で兄頼朝と涙の対面を果たします。

この時の状況を鎌倉幕府の歴史を綴った『吾妻鏡』では、次のように記述されています。

「今日弱冠一人、御旅館の砌にたたずみ、鎌倉殿に謁し奉るべき由をとなふ。土肥実平、土屋宗遠、岡崎義実等これをあやしみて、執啓する事能はず。時を移すのところ、武衛自らこの事を聞かしめ給い、年齢の程を思えば、奥州の九郎か、早くご対面あるべしてへり。よって実平かの人を請ずるに果たして義経主なり、すなはち御前に参進し、互いに往事を談じ、懐旧の涙を催す…」

と、吾妻鏡の鼓動が伝わる一節であります。

その昔、後三年の役に苦戦する八幡太郎義家に、弟の新羅三郎義光が京都で官職をなげうって奥州まで駆けつけ、共に戦い敵を滅ぼした例を引き合いに出し、「今の来臨は、尤もかの先例に叶う」と感激の面持ちであったと言う。

二枚橋に掲げられたレリーフ

おそらくこの時に弁慶以下の部下を連れ、この麻生区を通り駿河の黄瀬川まで行ったのであろう。想像をたくましく推理すれば、この地に明るい鈴木三郎重家と亀井六郎重清兄弟を先頭に、義経とその手綱を引く弁慶、続くは奥州藤原秀衡から頂いた佐藤継信、忠信兄弟、徒歩の者 30～40 名、殿は伊勢三郎義盛なり。この一行が、多摩区の寿福寺を過ぎ、高石に入って五反田川の橋を渡ろうとするが、徒歩の者ならいざ知らず、馬に乗った大男の弁慶では、今にも崩れそうな橋であったため、弁慶達が急遽村人を集め、木を渡して土を上から被せ補強して通ったのだ。この橋を横から見ると丁度お重ね餅のように見えたので、誰言うとなく『弁慶の二枚橋』と村人達は呼んだそうで、今もそのいわれが立て札に書かれています。

王禅寺見晴公園

また、弘法の松の先に弁慶の『鍋ころがし』という所があります。今でこそ立派な道路になっていますが、当時は人一人がやっと通れるくらいの細い尾根道で、大男の弁慶が乗っていた馬が足を滑らせて転びそうになった時、『ぐい』とタズナを引き締めた途端、馬に積んでいた鍋の紐が切れ、カランコロン、カランコロンと谷底に落ちていったという事で、これも誰言うとなく『弁慶の鍋ころがし』との呼称が付いたと言う事です。

現在は『王禅寺見晴公園』になっており、二枚橋同様 立札が立てられています。

（つづく）

シリーズ
「麻生の歴史を探る」　第97話

名家志村家　－豪商長谷川－

小島　一也（遺稿）

昭和7年発行された「柿生・岡上村郷土史」は、当時の柿生小学校の先生が広く村内を回り取材したもので、その中には「名家」の欄が設けられ、そこには、王禅寺志村家（現琴平神社宮司家）の項があり、「東は上目黒・下目黒、南は都筑郡荏田村・佐江戸村に至る、芝増上寺領26ヶ村の総名主、総取締役同家に蔵される諸事御法度記録、検地水帳など、貴重な冊書数百冊」とその家柄と業績を紹介しています。

この志村家の始祖はわかりません。現存する志村家奥津城（墓地）の墓誌によると、初代は志村善右衛門正信と記され、天正15年（1587）没しています。その子正之が善右衛門を世襲し、寛永9年（1632）王禅寺村検地の農民田畑持高表（川崎市史）を見ると、善右衛門家の持高は村内5番目の1兆9反歩余の田畑を有する上農（筆頭は3町歩余の三十郎）。それが3・4代は善右衛門を世襲、5代が文右衛門、6代が伝左衛門を名乗り、7代目が初代弥五右衛門となっており、正徳5年（1715）、前回より83年後の検地では、弥五右衛門の田畑持高は村内筆頭の3町7反余、山林14ヶ所となっています（川崎市史）。

志村家奥津城（上）と墓誌（下）

王禅寺村が寛永9年以来の増上寺領であることは前にも述べましたが、寺領が増えるに従って年貢を巡り寺と村との関係は複雑で、増上寺はこの正徳検地以前の元禄7年（1694）増上寺領検地を行っており、その際、この弥五右衛門は増上寺から王禅寺の名主役の任命を受けています（川崎市史）。これは増上寺支配を高め、村内問題を解決するためと思われます。当時王禅寺村では、表郷（現王禅寺東）と裏郷（現王禅寺西）の間に、裏郷が眞福寺村として独立する動きがあり、加えて表郷には、古刹王禅寺との間に山年貢高、お伊勢山寺領境界で争いがあり、眞福寺（裏郷）側は、王禅寺のお寺に加担、論争となりますが、市資料によると、増上寺は正徳2年（1712）「百姓、新村と申す、種々我儘相構えて申す…」として、裏郷の申し出は取り下げられ、お伊勢山の境界は後に神明社の再建で解決され、弥五右衛門は名主の役目を果たし、裏郷の名主年寄は一時廃されています。この頃、上田１反部の米の取れ高は約1石5斗。これに対して年貢米は5斗。増上寺領には別の租税があったといい、そうした中で起きたのが宝永5年（1708）の富士山噴火で、この弥五右衛門は御救米（砂降り）の供出に努力したと言われ、のちの豪商「長谷川」が創業されたのもこの頃とされ、多くの業績を残して、享保10年（1725）に没しています。

以後の志村家は文右衛門（8代）宗右衛門（9代）忠蔵（10代）と家督を守り、王禅寺の名主年寄を務めますが、当時王禅寺村にも多かった農民の農間渡世は商品経済を発展させ（揚屋一家創立もこの頃）、大山街道の間道（登戸～長沢～王禅寺～恩田～相模）にある「長谷川」は、米穀・酒・油・小間物の問屋として、近郷近在に知られていきます。この頃起きたのが天明3年（1783）浅間山の大噴火と天明の大飢饉で、その時の志村家の当主は2代目弥五右衛門でした（志村家11代）。この飢饉は王禅寺とても例外ではなく、この弥五右衛門は私財を投じて貧民を救ったといい、増上寺と増上寺領25ヶ村農民との間に年貢騒動が起こった際、増上寺世話人でもあった弥五右衛門は、公儀（幕府）・増上寺に「稲作一向実り申さず、畑作何れも皆無同様」（川崎市史）と訴え、王禅寺村は増上寺より50両の拝借金を得た、と記載があるようです。弥五右衛門は惜しいことに病を得て文化7年（1810）に没しています。

この後を継いだのが3代目（志村家12代）弥五右衛門でこの人の業績は多く別項に譲り、その後継が現琴平神社創建で知られる息子の志村文之丞で、16歳の時から諸国の金毘羅宮に参拝、四国讃岐の金毘羅宮には45回詣でて御神霊を奉斎したと言われています。天保14年（1843）志村家の所持する田畑は6町歩余、加えて山林14ヶ所、炭窯19、そして店舗「長谷川」は質屋も兼ね、その商いは米穀・太物（呉服）・酒・油・荒物（金属）・〆粕・干鰯など肥料にも及び、使用人は20を超えたといい、天保4年（1833）の大飢饉には「王禅寺村弥五右衛門（文之丞）飢饉を救う」（川崎市史）とあり、この志村家の所持田畑は、慶応年間（1861～8）も変わりませんでしたが、明治維新、幕府・増上寺領の解体により、その衰えをみせています。

シリーズ
教育の歩み 第１部

学校の誕生と成長（15）

小林 基男（柿生郷土史料館専門委員）

◆中等教育◆

初等教育の話が先になってしまったのですが、教育の普及は、高等教育が先行し、中等教育と初等教育が並行して後を追う形で進んでゆきます。フランスでコレージュと呼ばれた中等教育校は、初等教育よりも早く16世紀から発達し始めます。大学入学のための準備教育という側面を強く持っていたからです。都市当局のイニシアティヴで設立されたコレージュは、青少年がギリシアやローマの古典を学ぶための施設でした。『随想録』の著者モンテーニュも、ボルドー市のギュイエンヌ学院というコレージュに学んだことが知られています。

遅れて修道会もコレージュの設立を進め、中等教育に乗り出しました。17世紀の大哲学者デカルトは、近代合理主義の父と称されるのですが、イエズス会系のコレージュで学んだ経歴を持っていました。18 世紀に入ると、コレージュの数は大きく増加します。しかし新設されたコレージュのほとんどは、文法、古典、修辞学の3つのクラスしか持たない小規模校で、最上級に置かれる哲学の課程を欠いていました。フランス革命が始まる 1789 年のコレージュ数は、全国で300に達したと言われるのですが、内半数は小規模コレージュだったのです。

モンテーニュ『随想録』初版表紙

コレージュの授業料は無料でしたが、多くは寮生であり、寮の費用は高額でしたから、実際の負担額はとても大きかったのです。コレージュでは、富裕な農民や都市中産層の子弟も学んでいたのですが、彼らの多くは全課程の修得を目指すわけではなく、必要とすることだけ学んで中退するケースがほとんどだったのです。そのため卒業生に限ると、そのほとんどは、貴族や大ブルジョワの子弟だったのです。その上、コレージュの数は増えたのですが、在籍する学生数は、逆に減少していたのです。小規模なコレージュに在籍する学生数は増えていたのですが、逆に大都市に立地し、全課程を網羅する有名コレージュに学ぶ学生数は、徐々に減少していたのです。

18世紀初頭のコレージュに学ぶ学生数は、6万人に近かったのですが、フランス革命が勃発した 1789 年の在籍学生数は、4 万人台にまで減少していました。それは、コレージュの古典重視の姿勢が、当時全盛を迎えていた啓蒙思想家たちから、厳しく批判されたからでした。「ラテン語偏重の時代遅れの教育」などと修道士による教育が槍玉に上げられ、集中砲火を浴びせられていたのです。

啓蒙思想は、1760 年代にイエズス会を解散に追い込むことに成功し、歴史・地理・数学・自然科学からなる近代的な学問を中心にした教育、社会生活に有益な教育、非宗教者（俗人と呼ばれました）による教育、市民教育、統一的なプログラムによる教育など、中等教育と初等教育の改革案を提示したのです。しかし、財政難のために改革は見送られ、次代の課題とされたのです。

女子教育はどうだったのか。女子も男子と同じように、たて前の上では村や町の小学校で、初等教育を受けることが出来ました。しかし、女子の就学率は男子に比べずっと低いままでした。第13回に記したように、両性の識字率の違いを見れば、その点は明らかでした。17世紀に入るとウルスラ会を先頭に、女子教育に特化したいくつもの女性修道会が作られ、活動し始めます。こうした修道会は、修道院に通ってくる町や村の女子生徒たちに無料で初等教育を施していました。しかし、こちらはお座なりの慈善事業に留まっていました。修道会が最も力を入れていたのは、貴族や大ブルジョワの令嬢を寄宿生として受け入れ、高い寮費や授業料をとって、一定の教育を施すことでした。

聖ウルスラ教会の守護聖女ウルスラ像

通学生と寮生は明確に区別されていました。貴族や大ブルジョワは娘が7、8歳になると、修道院に預けて、娘の教育を修道女任せにするのが、この時代の習慣だったのです。そこでのカリキュラムは、宗教、読み書き、算数、歴史と地理、音楽、ダンスなどとなっていましたが、ウルスラ会の教育を見学した人たちは、コレージュクラスの生徒たちも、書物を歌うように読んでいると、半ば呆れたように記しています。カリキュラムに記されていても、歴史や地理の授業は、ほんのおざなりに数回実施されるだけでした。それでもウルスラ会はましな方で、娘たちを修道院内に寄宿させるだけで、授業らしい授業は全く行わない修道院もあったのです。

修道院での女子教育の理念は、キリスト教教育に基づいた良妻賢母の養成にありました。19世紀のイギリスや20世紀の日本でもてはやされた女子教育の理念は、一足早くフランスで誕生していたのです。そこでは、宗教や道徳、音楽やダンスが、知育よりも重視されていたのです。知識欲の強い娘たちには、到底満足できる教育ではなかったのです。

（続く）

「早野上ノ原遺跡　現地見学会」報告

2018年11月4日に川崎市教育委員会による見学会が催されました。雨模様の天候にもかかわらず、大勢の方々が参加され、関心の高さを示しています。

今回は第4次調査ということで、過去3回で未調査部分について9月から進められているそうで、まだ始まったばかりの感ではあっても、柱跡や窯跡が残る竪穴住居跡、落とし穴跡、過去に未発見の井戸跡などが出てきており、古代から近世にかけての複合遺跡として、ますます全体像の解明に期待がかかります。あと10年は続けられるとのことでしたが。

左の写真左側に大きなムロが出ていますが、右側のへりがそこにかかる住居跡の溝の片側を削り取っている様子が判ります。これも時代の変化に伴う居住形態の変遷を物語っているのでしょうか。

柿生郷土史料館催物案内　【参加自由、入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日　（原則として月4回）

12月　1・8・15 日（毎土曜日）　**1月**　6・13・20・27 日（毎日曜日）

◎開館時間:午前10時～午後3時　（12 月 22、29 日は休館です）

第15回 特別企画展　新聞記事に見る大正から昭和へ

平成天皇の譲位を来年に控えた今、大正天皇の崩御による昭和天皇の即位を当時の新聞はどのように報じたか。そこでは、国民の受け止め方や諸外国の反応は、どのように捕えられていたのか、当時の新聞記事や写真を展示します。記事に目を通しながら、皆様お1人お1人、ご自由にお考えいただけたらと、考えております。

期間　9月2日（日）～12月15日（土）　会場　柿生郷土史料館特別展示室

明治維新150周年記念　協賛企画　第2弾　協力　町田市立自由民権資料館

第78回 カルチャーセミナー　明治 10 年代の武相地域に自由民権運動は何をもたらしたのか

「明治維新150年」協賛セミナー第2弾として、町田市立自由民権資料館のご協力を得て「武相地域の自由民権運動」に関する3週連の講座を開きます。

明治という時代、日本を欧米諸国に負けない国にどう育て上げるか苦闘した中で、イギリス型立憲主義の実現をめざした自由民権運動は一定の成果をあげました。武相地域がそこにどうかかわったかについて、武相困民党の動きを含めて、3回にわけてお話しいただきます。

日：　第１日　１月１３日(日)　武相地域の民権運動（仮）　講師：松崎稔氏
第２日　１月２０日(日)　武相困民党（仮）　講師：杉山弘氏
第３日　１月２７日(日)　三多摩移管（仮）　講師：井上茂信氏

講師の方々はいずれも町田市立自由民権資料館学芸員

時：　午後１時 30 分～３時 30 分　会場：柿生郷土史料館特別展示室

柿生郷土史料館友の会へのお誘い

柿生郷土史料館では友の会への入会を常時受け付けております。手作り史料館に参画しませんか。

会員には「柿生文化」の送付や各種イベントへの優先受付などの特典を用意しております。この機会にぜひ入会をご検討ください。詳細は直接当館にお問い合わせいただくか、ホームページ http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo をご覧ください。